

平成24年度三島地域ふるさと創生基金事業 提案総括表

○=可能・良好・高い
 △=検討・調整・普通
 -=不可能・不良・低い・
 他事業等で取り組み可能

事業名	検討項目			実行委員会検討結果	実施希望事業
	地域波及性	事業実現性	実施団体		
スポーツを通じた地域ふれあい推進事業	○	○	○	地域全体への波及性、事業実現性及び実施団体とも方向付けがされているため、実施を希望する。	○
三島地域青少年育成事業	○	○	○	地域課題の解決策として、また、地域への波及性が高いと見込まれ、実施の要望も高いことから、実施を希望する。	○
三島らしさ再発見！郷土愛醸成事業	○	○	△	地域資源の発掘、情報発信の視点から事業効果が見込まれるため、実施を希望する。	○
里山整備と交流事業	○	○	△	地域への波及効果が見込まれ、各団体が連携することによる、一体感も生まれる可能性があるため、実施を希望する。	○
みしま花いっぱい事業	△	○	△	これまでの実績を踏まえ、地域ごとの活動の広がりが見られるような工夫をし、活動団体の育成を含めて実施を希望する。	○
みしま和太鼓活動醸成事業	△	△	○	継続事業で3年が経過した事を踏まえ、事業内容も例年と変わらない事と、他の補助事業も申請することから、実施には難しいと思われる。	
地域の茶の間交流事業	△	△	△	参加者が、一同に会すことへのニーズが不明であり、地域への波及効果と事業効果が薄いと思われる。	
みしま西山連峰登山 マラソン大会おもてなし事業	-	-	○	継続事業は、3年という区切りを設けた方がよい。おもてなし事業は、マラソン大会予算で実施可能なため取り組まない。	
みしま産業まつり第40回 記念「全国三島フェア」事業	-	-	○	市町村合併が進んだ中、三島の地名が無くなっているため、賛同が得られない可能性があると思われる。	
羽前 上山藩と七日市陣屋 往還道の探索事業	△	-	-	中心となって実施する団体が不明なため実施が難しいように思われる。また、地域での交流ニーズが不明であり、波及効果が薄いように思われる。	
自転車愛好の街づくり事業	△	-	-	仲間づくり等のソフト面の充実と事業に対する気運醸成を図ることが優先かと思われる。	
見つめ直そう地域のコミュニティ事業	△	-	-	具体的事業の方向性と実施主体が不明なことで、事業の実現性が乏しいと思われる。	
新規イベント事業	△	-	-	ペットボトルが飛ぶ仕組みや、ロケットの仕組みなどを学んだ後に気運を醸成し、サークル化等を行い、実施団体を育成していくほうが望ましい。	
地域応援事業	-	-	-	具体的な事業計画がされない地域イベントへの予算配分は難しいと思われる。また、地域ニーズがあるかわからないため、事業効果が薄いと思われる。	

平成 24 年度長岡市ふるさと創生基金事業について

平成 24 年度長岡市ふるさと創生基金事業については、次の事業を行う。

- 1 スポーツを通じた地域ふれあい推進事業 [事業費 1,018,000 円]
地域住民にスポーツを通じた身体づくりの機会を提供する。これによる、世代間の交流促進を図るとともに、地域の活性化を図る。
各種運動講習会の企画・実施、スポーツに対する意識調査等のニーズ把握等を行う。
内容等については、別添事業調書（事業No.1）のとおり。
- 2 三島地域青少年育成事業 [事業費 360,000 円]
地域の子どもたちの健全育成について、学校や保護者だけでなく地域全体で考え、健全でたくましい地域の担い手の育成を目指す。
子育て談話室を継続し、三島地域の子どもたちの現状についての座談会や講演会を定期的実施する。
内容等については、別添事業調書（事業No.2）のとおり。
- 3 三島らしさ再発見！郷土愛醸成事業 [事業費 80,000 円]
三島地域の地域資源を発掘、洗い出しを行いながら、人材の育成や情報発信をし、地域づくりの推進に結びつける。
地域資源発掘にはモデル地区（5 地区程度）を設定し、ワーキングチームを結成し、地域資源マップの作成を行う。
内容等については、別添事業調書（事業No.3）のとおり。
- 4 里山整備と交流事業 [事業費 180,000 円]
里山に触れることで、地域の良さを再認識するとともに、次世代へ受け継がれる地域を目指す。
荒廃した散策道の整備や、里山に住んでいる鳥の生態や里山が持つ重要性について、現地で講演会を開催する。
内容等については、別添事業調書（事業No.4）のとおり。
- 5 みしま花いっぱい事業 [事業費 260,000 円]
各地域で花を育てることによる、組織の育成・連携や「和」の構築を目指す。
街路花壇等への植栽や花に関する講演会・講習会を実施する。
内容等については、別添事業調書（事業No.5）のとおり。

平成 24 年度ふるさと創生基金予算額	2,260,000 円
うち 上記 1 から 5 の事業費の合計	1,898,000 円
ふるさと創生基金実行委員会開催経費	227,000 円
広報紙作成経費	135,000 円

第3号様式

事業の収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
1 負担金	2,260,000	長岡市三島支所地域振興課から
合 計	2,260,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
1 報償費	1,496,000	<p>(1)スポーツを通じた地域ふれあい推進事業 908,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーションントレーニング講師・助手謝礼 (@6,000円×4回×12月+@2,500円×4回×12月) 408,000円 ・JACOT団体謝礼一式 200,000円 ・ニュースポーツ、健康、栄養講習会講師謝礼 (@6,000円×10回) 60,000円 ・ジュニア競技スポーツ講習会講師謝礼一式 240,000円 <p>(2)三島地域青少年育成事業 330,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座談会講師謝礼(@5,000円×6回) 30,000円 ・講演会中央講師謝礼(@150,000円×2回) 300,000円 <p>(3)三島らしさ再発見！郷土愛醸成事業 30,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源発掘指導謝礼(@10,000円×3回) 30,000円 <p>(4)里山整備と交流事業 10,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山講演会講師謝礼(@10,000円×1回) 10,000円 <p>(5)みしま花いっぱい事業 20,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗講演会・講習会講師謝礼(@10,000円×2回) 20,000円 <p>(6)実行委員会関係 198,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会出席謝礼(@3,000円×11人×6回)
2 需用費	629,000	<p>(1)スポーツを通じた地域ふれあい推進事業 100,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品(用具類)等 100,000円 <p>(2)三島地域青少年育成事業 30,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 30,000円 <p>(3)三島らしさ再発見！郷土愛醸成事業 50,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議費(@3,000円×5集落) 15,000円 ・消耗品費 35,000円 <p>(4)里山整備と交流事業 90,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 30,000円 ・刈り払い機等燃料費 30,000円 ・交流会材料費 30,000円 <p>(5)みしま花いっぱい事業 210,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種代(@300円×150袋) 45,000円 ・土代(@500円×50袋) 25,000円 ・肥料代(@12,000円×2袋) 24,000円 ・プラグトレイ代(@200円×40枚) 8,000円 ・苗ポット代(@5円×24個×150人分) 18,000円 ・マグアンプ(@16,000円×1袋) 16,000円 ・プロミック(@11,500円×1箱) 11,500円 ・エスソイル(@1,500円×5袋) 7,500円 ・バキュームライト(@600円×5袋) 3,000円 ・消耗品費 22,000円 ・交流会材料費 30,000円 <p>(6)実行委員会関係 149,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務用消耗品費 14,000円 ・広報誌印刷費(@45,000円×3回) 135,000円
3 役務費	85,000	<p>(1)スポーツを通じた地域ふれあい推進事業 10,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者傷害保険料 10,000円 <p>(4)里山整備と交流事業 30,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者傷害保険料 30,000円 <p>(5)みしま花いっぱい事業 30,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者傷害保険料 30,000円 <p>(6)実行委員会関係 15,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵便料(一式)、振込手数料(一式) 15,000円
4 原材料費	50,000	<p>(4)里山整備と交流事業 50,000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銘板材木代、補修用丸太杭等 50,000円
合 計	2,260,000	

平成24年度 三島地域ふるさと創生基金事業 事業調書(案) ～事業No.1～

1. 事業計画書

事業名	スポーツを通じた地域ふれあい推進事業																
事業目的 事業内容	<p>【目的】 近年、スポーツをする子としない子の二極化や少子・高齢化社会の進展に伴い、子どもたちの社会性の低下、地域における人間関係の希薄化が問題になっている。 これらの課題を解決するためのひとつとして、地域住民にスポーツを通じた身体づくりの機会を提供し、子どもから高齢者までの地域のだれもが参加できる講習会等を開催し、健康増進や世代間交流を図るとともに、スポーツによる地域活性化を図る。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のスポーツ活動の現状や課題、アンケート等により住民のニーズを把握し、今後の方向性を検討する。(仮称 地域スポーツ推進委員会) ・ 各種事業を企画・実施することで、地域のスポーツに対する関心を高めるとともに、地域住民の交流の場として地域コミュニティの推進を図る。 <p><事業></p> <ol style="list-style-type: none"> ①小学生や保育園児の部、中・高年者の部によるコーディネーショントレーニングを取り入れた運動教室の実施(月4回程度) ②正しいウォーキング講習会、簡単ストレッチ運動講習会、ニュースポーツ教室講習会、ジュニア競技スポーツ講習会等を実施 ③体づくりに向けた栄養学講演会の実施 																
事業実施までのスケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>4月～ 地域ニーズの把握と地域課題の調査、実施方法について検討 コーディネーショントレーニングを取り入れた運動教室の実施</p> <p>5月～ 各種講習会・講演会の実施</p>																
実施主体 実施方法	<p>地域スポーツ推進委員会(仮称) <構成メンバー(案)></p> <table border="0"> <tr> <td>三島地区体育協会</td> <td>2人</td> <td>三島地区スポーツ少年団</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>三島地域体育指導委員</td> <td>2人</td> <td>三島公民館振興員</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>小学校PTA役員</td> <td>2人</td> <td>地域内保育園保護者</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>老人クラブ連合会</td> <td>2人</td> <td>事務局(地域振興課)</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計18名</p>	三島地区体育協会	2人	三島地区スポーツ少年団	2人	三島地域体育指導委員	2人	三島公民館振興員	5人	小学校PTA役員	2人	地域内保育園保護者	3人	老人クラブ連合会	2人	事務局(地域振興課)	
三島地区体育協会	2人	三島地区スポーツ少年団	2人														
三島地域体育指導委員	2人	三島公民館振興員	5人														
小学校PTA役員	2人	地域内保育園保護者	3人														
老人クラブ連合会	2人	事務局(地域振興課)															
備考																	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	1,018,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	1,018,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	908,000	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーショントレーニングを取り入れた運動教室 講師謝礼 @6,000 円×4 回×12 ヶ月 = 288,000 円 助手謝礼 @2,500 円×4 回×12 ヶ月 = 120,000 円 ・JACOT(日本コーディネーショントレーニング協会)団体謝礼 200,000 円 ※中央講師を招いたスポーツ指導者や団体向けの全体研修会 ・ニュースポーツ講習会等、栄養学講演会 講師謝礼 @6,000 円×10 回 = 60,000 円 ・ジュニア競技スポーツ講習会 講師謝礼 @240,000 円一式 240,000 円
需用費	100,000	消耗品(用具類)等一式
役務費	10,000	傷害保険料 参加者分 @100 円×100 人
合 計	1,018,000	

平成 24 年度 三島地域ふるさと創生基金事業 事業調書(案) ～事業No.2～

1. 事業計画書

事業名	三島地域青少年育成事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 近年、児童虐待の深刻化に加え、いじめや不登校の問題、携帯サイトを利用した犯罪の増加など、青少年を取り巻く環境は極めて憂慮すべき状況にある。 そのため、次世代を担う地域の子どもたちの健全育成について、学校や保護者だけでなく地域全体で考えることにより、心身ともに健康でたくましい地域の担い手を育てることを目指す。</p> <p>【内容】 ①みしまの子どもたちを考える座談会（講演会）の実施 子育て談話室と連携し、三島地域の子どもたちの現状についての座談会や講演会を定期的実施する。 これにより、地域が問題や現状を把握し、地域としての改善策や対応策について検討していく。</p> <p>②中央講師の招聘による講演会の実施 次代を担う青少年が、本当に豊かに育つための指針となるよう、中央の講師を招聘し「生きる力の火種の尊さ」や「子どもが育つ道すじ」について講演していただく。</p>
事業実施までのスケジュール	<p>【スケジュール】 ①は、5月から2か月に1回で開催 ②は、年2回を開催し、期日未定（夏・冬あたりを予定）</p>
実施主体 実施方法	三島地域青少年育成会議
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	360,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	360,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	330,000	・座談会講師謝礼 @5,000円×6回= 30,000円 ・中央講師謝礼 @150,000円×2回= 300,000円 (交通費・宿泊費含む)
需用費	30,000	消耗品等一式
合 計	360,000	

平成 24 年度 三島地域ふるさと創生基金事業 事業調書(案) ～事業No.3～

1. 事業計画書

事業名	三島らしさ再発見！郷土愛醸成事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 三島地域の自然・文化・歴史・史跡などを地域として再発掘し、地域の誇りや観光などに役立てるため、地域資源の再構築を図る。 三島地域の有する地域資源を収集し、活用するため、座談会や交流会、学習会等を開催し、人材育成を図り、情報発信しながら地域づくりの活性化に結びつける。</p> <p>【内容】 第1ステップ …… 収集・まとめ 第2ステップ …… 活用・PR 下記内容を数年間の継続事業として実施する。 平成 24 年度は、①について実施していく。</p> <p>第1ステップ ①地域資源の洗い出し モデル地区（5地区程度）を設定し、地区からワーキング参加者（5名程度）を選出し、集落座談会の実施により、資源の発掘を行う。 地域資源マップの作成による成果をまとめる。</p> <p>第2ステップ（地域資源活用例） ①地域・集落・地名看板作成及び設置 17集落と三島地域の入り口8箇所への看板設置 ②三島地域の資料のデータベース化作業（町史などの刊行物・キーワード検索） ③三島地域の暮らし文化・歴史・風土・地域イベントをまとめた映像集の製作 ④わかりやすい三島歴史書（三島町史）、三島地域かるたの作成 ⑤地域芸能（神楽舞）の伝承 ⑥地域歴史文化・観光案内ボランティア育成・養成講座の実施 ⑦「三ツ池」「蛇逃の滝」などの史跡、みしまの樹木100選の活用、町内通称の保存・看板作成 ⑧体験事業の実施（地域産業体験） ⑨地域探訪マップ、里山自然観察マップ、ウォーキングイベントの実施 ⑩地産地消と郷土食の伝承・創造、C級（コミュニティ）グルメコンテスト・レシピ集 ⑪おすすめスポットや景観などのフォトコンテスト ⑫みしま検定の実施 ⑬M-1（mishima-No.1）グランプリの実施 三島地域に誇れる名所・旧跡・物産・食等のグランプリコンテストの実施</p>
事業実施までのスケジュール	<p>【スケジュール】 6月 地域資源発掘ワーキングの開催 6月～10月 集落座談会の実施（地域資源の発掘、まとめ、マップ作成） 11月 成果発表</p>
実施主体 実施方法	<p>地域資源発掘ワーキングチーム （モデル町内会からの選出員、みしま観光推進協議会、郷土史研究家等）</p>
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	80,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	80,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	30,000	講師謝礼 @10,000円×3回
需用費	15,000	会議費 集落座談会お茶代 @3,000円×5集落
	35,000	消耗品等一式
合 計	80,000	

平成 24 年度 三島地域ふるさと創生基金事業 事業調書(案) ～事業No.4～

1. 事業計画書

事業名	里山整備と交流事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 地域資源である里山を整備することで、子どもから高齢者まで、世代がつながる空間ができる。 また、身近にある里山に触れることにより、ふるさとの良さを再認識し、親から子へ子から孫へと受け継がれる地域を目指す。</p> <p>【内容】</p> <p>①里山の整備の促進 荒廃した山道（ウォーキングコースや登山道）を整備する。 拠点となる施設や史跡の小木ノ城・剣が峰・大杉公園等までのルート整備 下刈り・枝きり等を行い、ハイキングや登山ができるように整備する。 場所によっては、土砂撤去や案内看板設置等を行う。 地域住民を巻き込み、イベント形式を取り入れながら整備を進めていく。</p> <p>②里山での鳥の生態講演会の開催 取付した巣箱で、バードウォッチングを行い、里山（三島地域等）に住んでいる鳥の生態や里山が持つ重要性について、現地で講演会を開催する。</p> <p>③「みしま樹木 100 選」の見直し 三島町の時に整備した、みしま樹木 100 選を現状に即したものに整備する。 現地を確認し、改訂版のみしま樹木 100 選を整備する。</p> <p>④自然ものづくり教室の実施 季節に応じた材料（樹木・花・草など）を使った工芸づくりや遊具づくりを行う。 講師は、地元のお年寄り 作った作品で里山をフィールドに遊んだり、コミセンにて展示を行う。</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>4月 ②の参加者募集</p> <p>5月 ①の整備地区の検討、②の実施</p> <p>6月～11月 ①の整備（下刈り、道付け等）及び③の検討 ④の実施（竹・押し花・木の実等の担当月間を決めて実施する。）</p> <p>2月 ④の作品展示</p>
実施主体 実施方法	鳥越福祉会、逆谷の文化と伝統を守る会等
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	180,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	180,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	10,000	講師謝礼@10,000円×1回
需用費	30,000	消耗品等一式
	30,000	刈り払い機等燃料代一式
	30,000	交流会材料費一式
役務費	30,000	傷害保険料 参加者分 @100円×30人×10回
原材料費	50,000	銘板材木代、補修用丸太杭代等一式
合 計	180,000	

平成 24 年度 三島地域ふるさと創生基金事業 事業調書(案) ～事業No.5～

1. 事業計画書

事業名	みしま花いっぱい事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 「花」を育てることによる、団体・町内の主体性を育み、地域の和を醸成し地域の活性化につなげていくことを目指す。</p> <p>【内容】 ①街路花壇のモデル地区の拡充・育成 (1)秋苗の育苗 (2)街路花壇の植栽（七日市地区等の街路花壇植栽）</p> <p>②国道 352 中永待避所へプランター設置と管理の実施</p> <p>③花に関する講演会・講習会の実施 三島地域全域を対象とした講演や講習会の実施</p> <p>④町内で花植え活動している町内会や団体の広報 コミセン新聞やコミセン掲示板での活動の様子への掲出 相互協力体制の確立に向けた検討</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>4月～11月 中永待避所への花植え及び管理の実施</p> <p>6月 秋苗講演会の参加募集</p> <p>7月 秋苗の播種及び講演会の開催</p> <p>10月 秋苗の定植及び苗の指導会の開催</p>
実施主体 実施方法	花咲け三島実行委員会
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	260,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	260,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	20,000	講師謝礼 @10,000 円 × 2回
需用費	210,000	街路花壇植栽事業 158,000
		種代(300 円 × 150 袋) 45,000
		土代(500 円 × 50 袋) 25,000
		肥料代(12,000 円 × 2袋) 24,000
		プラグトレイ代(200 円 × 40 枚) 8,000
		苗ポット代(5円 × 24 個 × 150 人) 18,000
		マグアンプ(16,000 円 × 1袋) 16,000
		プロミック(11,500 円 × 1箱) 11,500
		エスソイル(1,500 円 × 5袋) 7,500
		バキュームライト(600 円 × 5袋) 3,000
消耗品等一式 22,000		
交流会材料費一式 30,000		
役務費	30,000	傷害保険料 参加者分 @100 円 × 150 人 × 2回
合 計	260,000	

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	みしま和太鼓活動醸成事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 和太鼓を通じ、三島地域に新たな伝統をつくる。 また、老若男女が一同に会し、世代間の交流を促進し、地域のつながり・結束を強める。</p>
	<p>【内容】 ①オリジナル曲の作成 3曲目となるオリジナル曲の製作</p> <p>②会員増加に対応する太鼓の購入 現在は、近隣地域及び町内会から借用し練習・発表をしている。 活動が活発となり、各イベントで披露している中、入会希望者が増加している現状もある。 借用している町内・団体とイベントが重複した際には、発表できない事態が訪れる。また、入会者の増加への対応もあるので、三島地域ふるさと創生基金事業実行委員会で和太鼓を整備し、これの対応を行う。</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>5月 太鼓の選定 6月 楽曲製作の依頼 8月 楽曲完成・練習 9月 太鼓の整備</p>
実施主体 実施方法	三島かたくり太鼓
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	2,000,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	2, 000, 000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	60,000	講師謝礼 @ 5,000 円 × 6回 太鼓借用謝礼 @30,000 円 × 一式
需用費	13,000	消耗品一式
委託料	100,000	楽曲製作
太鼓整備費	1,827,000	大太鼓3台 @580,000 円 × 3台 × 5%
合 計	2, 000, 000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

地域での和太鼓への関心は高まってきていると思われ、小学生から高齢者まで入会数が増えている。発足3年が過ぎ、当初の目的である団体の育成というソフト面については、一定の成果があった。地域内で活動している他の趣味の団体(例えば、吹奏楽の団体とか踊りの団体)と、区別するのは難しいと思われる。

また、楽曲にしても、他の団体との曲の共有も可能性はあると思われる。

実施団体は、コミュニティ助成事業(宝くじ助成事業)に申請することから、計画にある事業は、上記を踏まえ、内容も例年同様であるため実施には難しいと思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	地域の茶の間交流事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 ひとり暮らし高齢者などを対象に、単に食事の確保にとどまらず、利用者やボランティアとのふれあいを目的とした食事サービスを実施を目指す。併せて、みしまコミュニティセンター配食サービス事業の拡大と発展を目指す。 また、利用者の増加と利用者間の交流、会食をすることによる楽しさと、施設利用や買い物を通じ喜びの実感を目指す。</p>
	<p>【内容】 ①地域の茶の間交流会の実施 各集落で開催している地域の茶の間を、みしま会館で一同に会す機会を設け、利用者間の交流を図る。 基金事業は、高齢者の会場までの交通手段の費用に充当する。 地域全域を一同に会すのではなく、集落単位で開催しているものを、いくつかの集落をまとめて開催する。 例えば・・・ ○月・・・日吉地区（鳥後・七日市地区） ○月・・・脇野町地区（上岩井、吉崎、脇野町地区） ○月・・・吉川地区（三島中条、三島新保、大野、下河根川、瓜生地区） ○月・・・天津地区（蓮花寺、中永、三島上条、逆谷地区） ○月・・・大都地区（気比宮、藤川、宮沢地区）</p> <p>みしま会館で会食後、みしまコミセンでの見学や歓談、体育センター前のスーパーでの買い物等で一日を過ごす。</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】 5・10月・・・日吉地区（鳥後・七日市地区） 6・11月・・・脇野町地区（上岩井、吉崎、脇野町地区） 7・1月・・・吉川地区（三島中条、三島新保、大野、下河根川、瓜生地区） 8・2月・・・天津地区（蓮花寺、中永、三島上条、逆谷地区） 9・3月・・・大都地区（気比宮、藤川、宮沢地区）</p>
実施主体 実施方法	三島地区社会福祉協議会、みしまコミセン福祉部会
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	300,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	300,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
委託料	300,000	越後交通乗り合いバス @30,000円×10回
合 計	300,000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

三島地域では、社協とコミセン福祉部会が協力し、一人暮らしの高齢者宅等への見守りを兼ねて、月に2回の配食サービスを行っている。

会食利用者は、近隣の人たちとふれあうことで、楽しさと喜びが生まれてくると思われる。

しかし、近所なら参加するけど、送迎があったにしても、会食を希望する方は少ない。と言った地域の特性も考慮する必要がある。

今後は、三島地域で会食へのニーズ把握を行いながら、また、配食サービスの拡充事業として、社協やコミセン福祉部会での事業展開を検討していく方が望ましいと思われる。

以上のように、会食を希望している利用者がどれだけいるかが不明であり、地域への波及効果が薄いように思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	みしま西山連峰登山マラソン大会おもてなし事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】</p> <p>マラソン大会を通じて、市民ランナーと地域の交流促進を図る。 また、この事業を通じ地域内の各種団体とおしの連携促進を図る。</p>
	<p>【内容】</p> <p>①更なるおもてなし事業の充実 他地域で開催している市民マラソンを参考に、おもてなし事業の強化を図る。</p> <p>②大学陸上部員を招待して一緒に走ってもらう。また、民泊希望を募りふれあいの場を設ける。</p> <p>③コース途中にカメラを設置して、ライブ映像を一般市民に見てもらう。また、ゴール地点で撮影した写真を希望するランナーに配布する。</p> <p>④ランナーに足の疲れを取ってもらうために青竹踏みを記念に持ち帰ってもらう。</p> <p>⑤開・閉会式会場におもてなしテントブースを設けて、地元特産品などをPRしたり、参加ランナーと地域住民が交流したりする場を設ける。</p> <p>⑥給水所に応援テントを設置し、地域住民からのボランティアによるドリンクや軽食の提供、選手への激励を行う。</p>
事業実施までのスケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>5月上旬 「ランナー激励」・・・応援旗、青竹踏み作成、手作り横断幕の作成・設置 「大学生ランナー交流」・・・民泊サポーターの募集</p> <p>5月中旬 「参加者サービス」・・・参加賞キーホルダー、大会ライブ映像の放映、大会写真展示、コース内クリーン作戦</p> <p>大会当日 「その他」・・・三島汁サービス、出店ブース運営、参加者交流会</p>
実施主体 実施方法	みしま西山連峰登山マラソン大会実行委員会
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	260,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	260,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
大学陸上部員参加経費補助	125,000	@25,000円×5名
豚汁運営費 (材料・プロパン)	74,500	一式(1,000人分)
副賞経費 (三島特産品)	25,500	17人(16種目)×3個(1位~3位)×@500円
青竹材料費	10,000	一式
大学陸上部員 民泊謝礼金	25,000	@5,000×5軒
合 計	260,000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

新潟国体の開催年から今年度を含め、3年間事業を実施してきた。同じ事業を行うことでの、地域や大会への波及効果が薄れてきているようにも感じられるため、継続事業は、3年という一つの区切りをつけた方がよいと思われる。

大会参加者からの参加費を増額したことにより、マラソン大会実行委員会予算で、おもてなし事業等の実施が可能のため、本事業の取り組みは行わない。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	みしま産業まつり第40回記念「全国三島フェア」事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 H24年度で第40回を迎える。 これを記念し全国三島フェアを開催し、特産品の物販や伝統芸能発表などにより、各市町村・団体の親睦を深めてもらうとともに、「三島」を県内外に情報発信する。</p> <p>【内容】 旧三島町の時の町政40周年記念の全国三島フェアのイメージ</p> <p>市町村合併前も含み「三島」と付く市町村から三島地域に来ていただき、各市町村・団体の名物や特産品の販売、伝統芸能等の発表などしてもらう。</p> <p>《開催案》 日時 平成24年11月3日（祝） 9時30分から16時まで または、11月第一土曜・日曜 会場 長岡すみしま体育館及び駐車場 または、三島支所及び駐車場</p>
	<p>【スケジュール】 4月 … 関係市町村へ案内 5月 … とりまとめ完了 6月 … 会場レイアウト、ステージ発表の出演交渉と調整 9月 … 出展者のとりまとめ 業者選考 10月 … イベントPR 開催告知チラシ配布 各種届出 業者発注 11月 … イベント当日</p>
実施主体 実施方法	全国三島フェア開催委員会(仮称)：みしま産業まつり実行委員会内
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

	項目	予算額	内 訳
	ふるさと創生基金	2,000,000	
自己資金・特定財源等	市補助金	1,300,000	みしま産業まつり実行委員会
	協賛金等	100,000	地域内各企業、出店者など
	合 計	3,400,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
会議費	20,000	
会場設営費	1,000,000	ステージ、テント、机、イス等レンタル
電気、水道設備費	200,000	仮設工事費一式
招待市町村招聘経費	800,000	4市町村×20万円
ステージイベント費	600,000	ステージイベント経費一式
農林産物品評会経費	250,000	
広告宣伝費	200,000	チラシ印刷費一式
警備等委託料	100,000	警備委託、シルバー人材センター委託等
各種申請等手数料	80,000	臨時営業許可申請、ゴミ処理、振込手数料ほか
会場準備等人夫賃金	50,000	
保険料	30,000	イベント保険料
事務用消耗品	70,000	消耗品類一式
合 計	3,400,000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

一過性のイベントでの地域活性化への波及効果は薄いと思われる。

また、この事業を実施しての団体育成や事業発展の観点から見ても、期待は薄いと思われる。

かつて行った時は、市町村合併前で「三島」という地名があったため、全国から参加をしてもらったが、当三島地域も長岡市に合併し、地名には「三島」が無くなっているため、実現に際しては、全国からの賛同が得られないように思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	羽前 上山藩と七日市陣屋往還道の探索事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 三島地域の歴史の一つの上山藩と支領七日市との関係を深くまで掘り下げて学び、 相関関係の中から、今後の両地域の交流を促進させる。 また、山形上山と新潟三島の歴史的なつながりを後世へ受け継いでいくための礎を 築くことを目指す。</p>
	<p>【内容】</p> <p>①往還道探索 三島地域～上山までの旧道をめぐること、沿線の歴史と自然風土を学び、記録 と資料整備を行う。 ・三島（七日市）から山形（上山）までの旧街道を歩き、その行程を記録する。 （探索には、参加者を募り、車を帯同させ、その都度帰宅する。やむを得ない ときは、近くへ宿泊する。） ・道中の史跡・名称、道程、風土・気候等を学びながら記録する。 ・記録集を作成し、後世へ歴史書として残す。</p> <p>②上山藩と七日市陣屋との歴史講座 相関関係を紐解いて学び、時代を超えて上山市民との交流を深める。</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>6月 往還道の行程確認 7月 上山藩と七日市陣屋についての歴史講座の開催 8月 参加者募集 9月 参加者説明会 10月 往還道探索（10日間～15日間） 11月～3月 記録集の編集</p>
実施主体 実施方法	
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	267,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	267,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
燃料費	15,000	三島～上山間 自家用車2台分
消耗品費	20,000	消耗品類一式
宿泊料	120,000	探索者宿泊費 @10,000円×6名×2泊
印刷製本費	100,000	記録集印刷代 200部一式
講師謝礼	12,000	歴史講座 @6,000円×2回
合 計	267,000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

上山市との歴史的な経緯についての講座などは、地域の歴史を知る上で重要度は高いと思われる。それを後世に受け継いでいくことも、必要度は高いと思われる。

しかし、事業を実施していくための中心となる団体が不明なことと、以前、交流があったみしま観光推進協議会と上山市の現在の交流状況、及び、今後の事業展開が不明なので、実施は難しいと思われる。

また、地域全体での、上山市との交流ニーズの把握をしていないことから、地域への波及性が不透明であるため、実施は難しいと思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	自転車愛好の街づくり事業
事業目的	【目的】 三島地域の地形は、自転車には有効であり、市民だれもが楽しめるコース設定や整備をすることで、健康増進と自然環境保護の促進を目指す。
事業内容	【内容】 ①自転車安全乗車ガイドとサイクリングマップの整備 ②サイクリングコースの案内看板の整備 ③三島地域「ノーカーディ」の実施
事業実施までのスケジュール	【スケジュール】
実施主体 実施方法	
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金		
自己資金・特定財源等		
合 計		

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
合 計		

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

自転車愛好の街にするには、まずは、仲間づくりや交通ルールを学ぶ活動などのソフト面を充実させて、自転車への愛着の気運を醸成させることが一番と思われ、そこから、サイクリングロードの整備や、マップの整備、地域内ノーカーディへの波及効果が生まれて来るように思われる。

また、活動が活発化し、盛り上がりが増してきたら、みしまコミュニティセンターで活動の支援を受けていくことが妥当と思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	見つめ直そう地域のコミュニティ事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 三島地域でのコミュニティ意識の醸成をはかり、これからの三島地域に必要な（市民力・地域力の生かせる）人材の発掘と育成を図る。 地域と行政が、一緒に地域における課題について考えることにより、地域の現状を職員が把握できるとともに、地域と行政との一体感が醸成できる。併せて、職員の交渉能力及び問題解決のスキルアップも図る。</p>
	<p>【内容】</p> <p>①コミュニティに関する学習会の開催 年4回シリーズによる、まちづくり（コミュニティのあり方等）の学習会 4回のうち1回は、全国的に有名な講師を招聘し実施 具体的講師 ・長岡市市民活動推進課長 ・長岡市で活動が活発なコミュニティセンター長 ・群馬大学 片田教授氏 ・NPO 法人「命のつどい」理事長 多田そうべい氏</p> <p>②学習会後のフォローアップ実践会の実施 学習会後に実践できることを町内会やコミセン各部会で話し合いを行い、できる ところから実践していく道付けを実施 会議のファシリテート役は、三島支所職員（係長・主査等）が地域と一緒に 考え、実践していく。</p>
事業実施 までの スケジュール	<p>【スケジュール】</p> <p>5月 … 第1回学習会、フォローアップ実践会 6月 … 具体的実践月（最後に、振り返りチェックを行う） 7月 … 第2回学習会、フォローアップ実践会 8・9月 … 具体的実践月（最後に、振り返りチェックを行う） 10月 … 第3回学習会、フォローアップ実践会 11月 … 具体的実践月（最後に、振り返りチェックを行う） 1月 … 第4回学習会、フォローアップ実践会 2月 … 具体的実践月（最後に、振り返りチェックを行う）</p>
実施主体 実施方法	
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金	1,100,000	
自己資金・特定財源等		
合 計	1,100,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
報償費	1,000,000	講師謝礼、交通費一式
需用費	100,000	消耗品費・お茶代
合 計	1,100,000	

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

コミセンが設置され、活動が行われている現状を踏まえた中で、活動の自主性、計画性、活性化について議論や方向性について学ぶことは、今後の活動に大いに反映できると思われる。

コミュニティに対する気運を盛り上げることにより、地域活動の活性化が見込まれることと思われる。

しかしながら、事業内容が、具体的にコミュニティ活性化のどの部分について学ぶのかが見えてこない。

また、中心となって取りまとめている団体等がわからない。

以上のことから、具体的方向性と実施団体が不明であり、事業の実現性に乏しいため、本事業の取り組みは行わない。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	新規イベント事業
事業目的 事業内容	<p>【目的】 新たなイベントを創設することにより、地域の活性化と地域間交流の促進を目指す。</p> <p>【内容】 ①ペットボトルロケット選手権大会の実施 参加者は、親子・団体に区分する。 部門別の飛行距離や形状等を計測、評価する。</p>
事業実施 までの スケジュール	【スケジュール】
実施主体 実施方法	
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金		
自己資金・特定財源等		
合 計		

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
合 計		

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

実施に際しては、まず、子どもの広場や児童クラブで実演したり、ペットボトルが飛ぶ仕組みを学んだりという活動の中で実績を積み、子ども達のニーズを把握していくことが望ましい。

ニーズを把握する中で、仲間づくりを行いペットボトルロケットに対する気運を醸成し、活動サークルを作ることが大会実施への順序に思われる。

また、活動が活発化し、盛り上がりが増してきたら、みしまコミュニティセンターで活動の支援を受けていくことが妥当と思われる。

平成 24 年度 提案事業調書（実行委員会検討結果）

1. 事業計画書

事業名	地域応援事業
事業目的	【目的】 地域内で行われているイベントへの地域独自の拡充や独自の地域イベントへの取り組みを支援することにより、協力住民の志気を高め、地域活性化を目指す。
事業内容	【内容】 ①地域イベント応援 各種イベント協力町内へ資金的支援を行う
事業実施までのスケジュール	【スケジュール】
実施主体 実施方法	各町内会
備考	

2. 収支予算書

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
ふるさと創生基金		
自己資金・特定財源等		
合 計		

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	内 訳
合 計		

3. 実行委員会での意見

着眼点(検討材料)

… 地域活性化の波及性、事業実現性、団体・事業の発展性、独自性・先駆性、必要性(継続の場合)

具体的な事業計画をもとに算出された根拠をもって配分することが、前提条件である事業であるため、具体化されない地域イベントへの予算の配分は厳しいと思われる。

例えば、越後三島竹あかり街道での脇野町地区会の活動への資金応援については、その実行委員会から助成があるほうが望ましいのではないと思われる。

また、実施した場合、この事業に取り組める具体的な可能団体がどれだけあるかわからない。

あった場合でも、長岡市地域コミュニティ事業補助金の活用で対応できると思われる。

三島地域の活性化に向けた提言

平成 23 年 3 月 24 日

三島地域委員会

委員長 片野 健一

三島地域委員会では、二つの分科会を設置して、2年間にわたり地域課題や地域資源を活用したまちづくりについて検討を重ねてきた。

これらの検討結果に基づき、住民主体のコミュニティ活動を推進し、安全・安心なまちづくりを進めたい。

◇コミュニティ活動を活かしたまちづくり

豊かな自然や歴史、伝統文化などの多様な地域資源を活かした取り組みと次代を担う地域リーダーの育成など、地域の知恵と力を結集した市民力が発揮されるまちづくりを推進したい。

このため、地域住民の地域活動への参画意識を高め、地域間の交流を促進し、住民主体のまちづくりを実践する。

- 1 地域の事業や行事、イベントについては、実施方法の見直し等を進め、実行委員会方式や公民館事業からコミュニティ事業への移行を図る。
- 2 コミュニティ推進組織の活性化を図るため、簡素で効率的な仕組みづくりを確立するとともに、ネットワークづくりを強化し、コミュニティ活動を支援するため、各町内に「コミュニティ推進委員」（仮称）等の組織化について検討を進める。
- 3 「コミセン新聞」や「コミセンだより」などの広報活動の充実を図り、地域住民へ積極的にコミュニティ情報の提供を行い、コミュニティ活動への理解や協力を求める。
- 4 きめ細やかなコミュニティ活動を実施するため、住民の理解と協力を得ながら補助金に頼らない自主財源の確保に努める。
- 5 コミュニティ事業補助金やふるさと創生基金事業を有効に活用し、長期的なビジョンのもとに、地域に根ざしたコミュニティ活動を実践する。

◇子育てと福祉を大切にしたいまちづくり

子育てを応援し、高齢者が生きがいを持ち、障がい者が自立して暮らせるように地域で支えあう、安全・安心な福祉のまちづくりを目指す。子どもの夢を育み、豊かな心を育て、多様な文化にふれあいながら、多世代が参加しやすく、地域全体で支え合う活気ある環境を整えたい。

- 1 子育てを支援する放課後児童健全育成事業（児童クラブ）については、平成23年度から脇野町小学校区の「わくわくルーム」をみしま交流センターに移設し、より充実した取り組みを図る。「日吉児童クラブ」は、専用スペースを確保し、児童館的な機能を持った安全・安心な居場所づくりのための環境整備を進める。
- 2 配食サービス事業については、対象者や実施方法などの利用者ニーズを的確に捉え、見守り体制の強化を図りながらサービスの充実を図る。

◇里山の保全と資源の利活用によるまちづくり

過疎化や農家、林家の高齢化による里山の荒廃により、自然環境の維持管理が困難になることが懸念されている。特に高齢化が深刻となっている中山間地域における集落の活力維持が課題となっており、市民全体の共有財産として、次世代に守り伝えていきたい。

- 1 間伐材や伐採林、河川の障害樹木等を資源とする薪ストーブや木炭、陶芸窯などに再利用、再活用する持続可能な自然循環リサイクル事業を推進するとともに、循環型社会への意識改革と仕組みづくりを行い、地域の活性化と資源保全の両立を図る。
- 2 里山の持つ機能を活かすため、環境教育や自然体験の場、レクリエーションの場として活用することで相互交流による活性化を図る。地域住民と連携して下刈り、間伐などの住民参加型の里山整備に努め、身近な自然に気軽に親しめる機会を増やす。

◇地産地消、安全・安心なまちづくり

農家や地域住民、消費者、農協や商工会等が連携し、地産地消による安全・安心な農産物の生産と流通を確保する。生産者の顔が見え、消費者と話ができるような関係づくりを強化したい。

- 1 地域の高齢者等を支えるため、農産物の直売所の充実や設置支援など、農家と消費者、農協、商工会等と連携できる支援体制づくりを行う。
- 2 地域ぐるみで環境保全のための共同活動を行い、安全・安心な地場産農産物の生産と地産地消を積極的に推進する。